

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 36 週(9 月 1 週 9/4~9/10)

平成 18 年 8 月分月報

(作成) 愛知県感染症情報センター

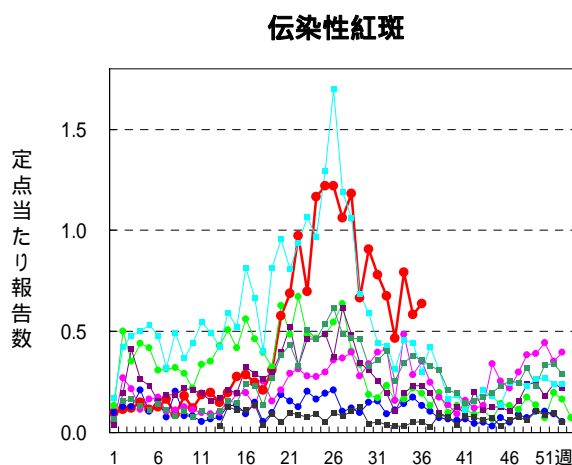
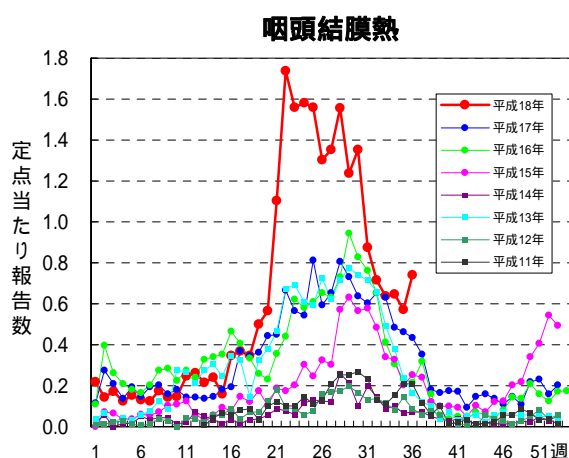
連絡先:052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

今週の内容

- ・ 注意する感染症
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ 平成 18 年 8 月分月報
- ・ 感染症だより (8 月後半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2006 年 9 月 08 日 (81 巻 36 号)
*麻しんの根絶計画 -フィジーの対策-
- ・ 五類定点把握感染症報告数
(保健所別、年齢別)

注意する感染症

- 1) **咽頭結膜熱** (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/intou.html>)
第 36 週の定点あたり患者報告数は 0.74 人、前週比 1.3 倍 (104 人 135 人) です。例年、この時期は患者報告数が減少しますが、本年は高い状態が続いています。
- 2) **伝染性紅斑** (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/ringo.html>)
第 36 週の定点あたり患者報告数は 0.63 人、前週比 1.1 倍 (106 人 116 人) と前週より増加しました。例年、この時期は患者報告数が減少しますが、本年は高い状態が続いています。



愛知県感染症情報センター

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

9歳女 マイコプラズマ気管支肺炎
10歳 食中毒 Aeromonas sp 証明
【一宮市 後藤小児科医院】
マイコプラズマ感染症 6名
病原性大腸菌O1 15歳男、25歳女
【一宮市 城後小児科】
咽頭結膜熱が散発。あとはおちついでいます。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

目立った感染症少なく、おちついています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
37歳男 病原大腸菌（O25）検出
8歳男 マイコプラズマ肺炎
4歳男 アデノウイルス（+）
【春日町 丹羽医院】
3歳男 便培養にてカンピロバクター（+）
【北名古屋市 田中クリニック】

尾張東部地区

病原大腸菌（O18）11か月男、（O25）1歳男
マイコプラズマ肺炎 6歳女
溶連菌感染症もよくみられる。
突発性発疹が多い。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
流行性耳下腺炎、伝染性紅斑、水痘等今週も散発でした。
その他目立った流行ありません。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
RSウイルス感染症ありました。
マイコプラズマ肺炎続いています。
【春日井市 春日井市民病院】
アデノ感染症、溶連菌感染症、水痘、手足口病、ムンプス少々。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ムンプスの流行続いている。
【小牧市 小牧市民病院】
伝染性紅斑が目立ちます。
4S病^(注)も見られます。
【小牧市 志水こどもクリニック】
伝染性紅斑がまだおおいそうです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
カンピロバクター 2名
病原性大腸菌O1 1名
【半田市 医療法人おっかわこどもクリニック】
38歳男 病原大腸菌O1（+）ベロトキシン（-）
5歳女 サルモネラO8（+）
10歳男 病原大腸菌O6（+）ベロトキシン（-）
【大府市 まえはらこどもクリニック】

(注) 4S：SSSS（Staphylococcal scalded skin syndrome、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群）

西三河地区

2歳男、9歳女 キャピリアアデノ(+)	カンピロバクター 8歳女
3歳男 イムノカードSTアデノ(+)	病原大腸菌 6か月男
11歳女 E.coli(O74)+カンピロバクター腸炎	【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
1歳男 E.coli(O1)	伝染性単核症 1名
3歳女 E.coli(O159)	マイコプラズマ肺炎 2名
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】	【知立市 宮谷クリニック】
異型肺炎 8歳男	アデノウイルス 2歳男
【岡崎市 医療法人深田小児科】	サルモネラO9 11歳女
カンピロバクター 3歳男、5歳男	【西尾市 やすい小児科】
サルモネラO9群、病原大腸菌O18(+)	1歳男 病原大腸菌 O20
2歳男	56歳女、19歳男 サルモネラ腸炎 O9
【岡崎市 花田こどもクリニック】	【西尾市 山岸クリニック】
3歳男 アデノウイルス感染症	7歳女 サルモネラO9
手足口病が散見される程度です。	4歳女 カンピロバクター
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】	5歳男 サルモネラO7
3歳男 カンピロバクター	8歳女 カンピロバクター
7歳女 サルモネラO4	3歳男 病原性大腸菌O1 VT-
【岡崎市 にいのみ小児科】	【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

11歳男 カンピロバクター腸炎	サルモネラ腸炎 数名
感染症胃腸炎が増えています。	カンピロバクター腸炎 1名あり
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】	【豊川市 豊川市民病院】
10歳女、5歳女、12歳女、1歳男 マイコプラズマ肺炎 4名	病原性大腸菌(O-18) 女1歳
9歳男 アデノ扁桃炎	カンピロバクター 男2歳
【豊橋市 医療法人野村小児科】	病原性大腸菌(O-18) 男7歳
	【豊川市 ささき小児科】

一 ～ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

細菌性赤痢 (二類感染症)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	春日井	24	女	9/5	9/6	9/9	推定感染地域； 国内

腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	O血清型、ベロ毒素型
1*	豊川	8	女	8/22	8/22	9/1	O157、VT2(+) 35週報告分・再掲
2	江南	2	女	8/17	9/1	9/5	O26、VT1(+)
3	江南	63	女	-/-	9/7	9/7	O157、VT2(+) 無症状病原体保有者
4	江南	55	女	-/-	9/4	9/7	O157、VT2(+) 無症状病原体保有者
5	衣浦東部	51	男	9/6	9/7	9/9	O157、VT1(+)
6	岡崎市	61	男	8/25	8/25	8/29	O157、VT1・VT2(+) <37週報告分>
7	一宮	42	女	-/-	9/5	9/8	O157、VT2(+) 無症状病原体保有者 <37週報告分>

1* ; 35週報にて診定月日「8/29」と記載しましたが「9/1」に訂正します。

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

マラリア 1例(推定感染地域；トーゴ)

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/mosquito.html#ma>)

レプトスピラ症 1例

クロイツフェルト・ヤコブ病 1例(孤発性) <35週報掲載分・再掲>

後天性免疫不全症候群 1例

・無症候期、推定感染地域；国内、推定感染経路；不明 <35週報掲載分・再掲>

8 月の一～五類感染症（全数把握対象）発生状況

「診断日」に基づく集計です。

平成 18 年度に発生があった疾病名 内は全数把握対象疾病数	平成 18 年 8 月			平成 18 年度 累 計 <愛知県>	内訳 (8 月)	
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全 体			
一類 感染症 7				発生報告無し		
二類 感染症 6	コ レ ラ	1〔1〕	1〔1〕	2〔2〕	3〔2〕	
	細 菌 性 赤 痢	1		1	15	
	腸 チ フ ス				2(1)	
	パ ラ チ フ ス				2	
三類 感染症 1	腸管出血性大腸菌感 染	31(7)	14(7)	45(14)	131(39) O18 1 件 O26 6 件 O157 37 件 O165 1 件	
四類 感染症 30	E 型 肝 炎				1	
	A 型 肝 炎				3	
	つ つ が 虫 病				2	
	デ ン グ 熱				2	
	レ ジ オ ネ ラ 症	2		2	13	
五類 感染症 14	ア メ ー バ 赤 痢		2	2	19	
	ウ イ ル ス 性 肝 炎 (E 型 肝 炎 及 び A 型 肝 炎 を 除 く。)				4	
	ク ロ イ ツ フ エ ル ト ・ ヤ コ ブ 病	1		1	2	
	劇 症 型 溶 血 性 症 レ ン サ 球 菌 感 染 症				3	
	後 天 性 免 疫 不 全 群 症 候	5	5	10	46	A I D S 5 件 無 症 候 性 4 件 そ の 他 1 件
	ジ ア ル ジ ア 症				2	
	髄 膜 炎 菌 性 髄 膜 炎				1	
	梅 毒	2	2	4	21	早期顕症 4 件
	破 傷 風				1	

〔 〕内は疑似症患者再掲

()内は無症状病原体保有者再掲

*ライム病 1 件 (6 月分月報掲載分) は、経過観察の結果、削除されました。

五類感染症（月報定点把握対象）発生状況

No	疾 病 名	平成 18 年 8 月			平成 18 年 7 月		
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県 全体
1	性器クラミジア感染症	96	25	121	121	27	148
2	性器ヘルペスウイルス感染症	32	7	39	29	6	35
3	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	34	7	41	30	4	34
4	淋 菌 感 染 症	54	18	72	52	17	69
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	76	14	90	59	6	65
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	2	5			
7	薬剤耐性緑膿菌感染症						

上記の報告数は感染症月報指定届出機関(性感染症 : 51、基幹 : 13 医療機関)で把握したものです。

感染症の類型及び定義

類 型	定 義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (6 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (1 疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (30 疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症（人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。）
五類感染症 (42 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
指定感染症 (1 疾病)	既知の感染症（一～三類感染症を除く）のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがあるもの。一年間に限定した指定。インフルエンザ（H5N1）が平成 18 年 6 月 2 日に指定された。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

暑かった日々が嘘のような秋霖に見舞われる毎日で、今日は半袖で頑張ろうか長袖にしようか迷ったりしています。夏休み明けで登校してくる女子学生も、見るだに寒くなりそうな薄着がいたり暑苦しそうなのがいり、です。ところでいつも貴重な情報をありがとうございます。8月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内:名鉄病院福田先生からは感染症全体が少ないがヘルパンギーナと手足口病が多く咽頭結膜熱、溶連菌感染症が続き、例年どおりサルモネラ腸炎、カンピロバクター腸炎が多くロタウイルス腸炎が数名確認され、入院ではヘルパンギーナ、手足口病の重症例と感染性胃腸炎が主体でマイコプラズマ肺炎が一定数あり、城北病院渡辺先生からは流角が増加、熱発患者は少なく、細菌性腸炎が散見、少し増加傾向でサルモネラやカンピロが多く、アデノ感染症はピークを過ぎた感あり、第二日赤岩佐先生からはマイコプラズマ肺炎の入院が多く、サルモネラ腸炎の入院例あり、千種区今枝先生からは熱だけのかぜが時々あり、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎4名(カンピロバクター、病原性大腸菌O167、O25、O6各1名で入院2名)と手足口病2名、咽頭結膜熱1名、水痘で口内炎の摂食困難で入院1名、ヘルペス性歯肉口内炎の入院1名、マイコプラズマを含む気管支炎・肺炎の入院が8名と目立つ、大同病院水野先生からは麻疹患者1人いたがその後の2次感染はなく、ムンプス流行中、ウイルス性腸炎、サルモネラ腸炎あり、伝染性紅斑発生の園あり、マイコプラズマ肺炎後の喘息発作で要入院例ありとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区:犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑がそれぞれ散発中、江南市昭和病院小児科からは肺炎の入院が目立ちマイコプラズマの他にクラミジア肺炎も多く、カンピロバクター腸炎、サルモネラ腸炎の入院も目立つ、春日井市民病院河辺先生からはマイコプラズマ肺炎の入院が多くサルモネラ腸炎の入院あり、常滑市民病院高橋先生からはムンプス、手足口病、ヘルパンギーナが少しずつあり、アデノ感染症がやや多めで入院例目立つ、とのお手紙でした。
- 3) 三河地区:トヨタ病院木戸先生からは夏かぜ減少、まだ胃腸炎は少し残り、マイコプラズマ、アデノウイルス感染症の入院がちらほら、加茂病院梶田先生からはヘルパンギーナ、手足口病減少、サルモネラO7、O8がやや多く、ムンプス、水痘が引き続き流行、マイコプラズマ肺炎の入院が多い、刈谷市田和先生からはマイコプラズマ感染症3人、他は感染性胃腸炎が時々みられる程度、碧南市永井先生からは手足口病、溶連菌感染症あり、豊橋市からは水痘、ムンプス、カンピロバクター菌腸炎、ウイルス性気管支炎などがいずれも少数、とのお手紙でした(市内長屋先生、宮澤先生)。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2006 年 9 月 8 日（81 巻 36 号）<http://www.who.int/wer/2006/wer8136/en/index.html>

麻疹。流行と対策。フィジー、06 年 2 月 - 5 月：05 年 9 月、WHO 西太平洋地域に加盟している 37 カ国全てが同地域の麻疹根絶の目標年を 2012 年と設定した。西太平洋地域事務局の勧告は麻疹ワクチンを含むワクチン接種率が国内全ての地方で 95%以上、麻疹サーベイランス網充実（国内 80%以上の地方で小児人口 10 万人当り麻疹届出数 1 例以上）、血清診断材料採取率 80%以上、遺伝子解析用ウイルス分離材料を収集すること（http://www.wpro.who.int/NR/rdonlyres/0F24B92E-AE2C-4C9B-B73B-E16ACB833C35/0/FieldGuidelines_for_MeaslesElimination.pdf）。南太平洋諸国では 97-98 年の未接種者接種（Catch-up）予防接種キャンペーンで麻疹発生は減少したが 06 年春にフィジーで流行が発生した。本報はフィジー（人口 84 万、南太平洋では最大国）における流行の概略である。1）背景：フィジーでは 03 年に MR 二混の 2 回法（生後 12 ヶ月と 6 歳。6 歳の接種は小学校入学に必須）が導入された。01 - 04 年の初回接種率は 83%であり、98 年以降麻疹確定診断例は発生していなかった。2）06 年の発生：06 年 2 月 17 日、フィジー保健省に 3 例（発病 2 月 8 日、11 日）の麻疹届出あり、西部国際空港地区居住児。2 月 23 日国立衛生研究所で麻疹 I g M 抗体陽性、オーストラリア WHO 地域標準検査室で確認、遺伝子検索実施。2 月 17 日 - 6 月 9 日の間に 132 例が麻疹の疑いで保健省に届出（発生状況のグラフあり）、22 例が I g M 抗体陽性で確認。90%が西部、残りが中部と東部居住者。人口 10 万当り発病届出数 3 例。58%が 5 歳未満、生後 6 - 11 ヶ月が最多で人口 10 万当り届出数は 378 例、生後 12 - 59 ヶ月の例では 29%が初回 1 回ワクチン接種済み、24%がワクチン未接種、46%がワクチン歴不明であり、31 例（24%）が要入院、死亡例はなかった。3）流行発生後の対応：サーベイランス強化。ポリオ根絶計画の急性弛緩性麻痺（AFP）サーベイランスの中核病院として機能してきた 21 病院を中心に発疹性発熱患者の個別調査・登録を実施、さらに予防接種拡大計画（EPI）担当者が発生状況をまとめて全ての医療関係機関にフィードバック。治療：WHO ガイドラインを普及。社会活動：麻疹に関する知識普及とワクチン接種参加の二段階に分けた社会活動実施。流行発生に対応した予防接種：生後 6 ヶ月 - 5 歳児を対象に MR 二混で接種。接種率目標は 95%。3 月 20 日 - 5 月 3 日に S I A s (Supplementary Immunization Activities) 予算で臨時接種実施。5 月 24 日までに 89,747 名（対象者の 98.0%）が接種（グラフあり）、20 地区のうち接種率が 95%未満の地区は 2 地区だけであった。接種後の副反応の報告はなかった。

世界のポリオ届出。05 06年： 世界全体の06年のAFP届出数は36,845例で15歳以下小児人口10万当り届出数は3.07、適切な検査検体採取率は87%であり、野生株ポリオ患者の届出数は05年が2,026例、06年が1,019例であった。 06年ポリオ患者届出数は多い順にナイジェリア 687(687、以下、カッコ内は野生株患者数) インド 204(204) アフガニスタン 26(26) モザンビーク 20(20) パキスタン 14(14) バングラデシュ 10(10) コンゴ民主共和国 8(8) エチオピア 8(8) ナミビア 7(7) インドネシア 2(2) であり、05年には478(478)であったイエメンと10(10)であったアンゴラは06年には各1(1)であった。

国際検疫病届出：記載なし。

担当者から：前回の34/35合併号が8月25日(金)発行、翌週の金曜日の9月1日はWHOの都合で本週報発行がお休みで9月8日(金)に36号発行。本抄訳は隔週に出していますので今回は36号の紹介だけとなりました。よろしくご了承ください。

